

## 普及活動情勢報告（令和5年2月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

### 有機栽培の実態把握のために ～アンケート結果報告と今後の意向調査～



有機栽培について情報交換する農業者と普及指導員

1月13日及び16～20日に、須崎市、中土佐町、津野町、梶原町の有機栽培や減農薬栽培等に取り組む生産者や法人など18戸を対象に、昨年夏に県内で実施した「有機農業の推進に係る農業者聞き取り調査結果（アンケート）」の報告を行いました。

併せて、次年度の有機農業の推進方針を説明するとともに、栽培技術の実証についての要望を聞き取りました。

各生産者がこれまでの創意工夫により確立してきた栽培技術や販路拡大の考え方、有機栽培を行ううえでの課題、支援要望等についてお話を伺うことができました。

今後は、聞き取った意向を参考に、有機農業推進のための体制づくりや現地実証等に取り組んでいきます。

### 直販所出荷量アップに向けて ～津野町直販所向けブドウ剪定講習会開催～



剪定講習する普及指導員ら

1月20日、津野町産業課が津野町直販所に出荷している生産者に呼びかけ、津野町北川のほ場でブドウ剪定講習会を開催し、生産者14人、町担当職員1人、当課職員2人が参加しました。

当課からは、剪定方法や発芽促進について資料を用いて説明を行い、その後剪定方法を実演しました。

生産者からは、「2芽残して剪定して、2本とも伸びた場合はどちらを残したら良いか」「発芽促進のための薬剤はいつ頃使用すればよいか」など、活発な質問がありました。

当課は今後も、直販所に出荷する生産者の出荷量アップを目指して技術指導を行い、直販所の活性化につなげていきます。

### 今年のワサビの生育は？ ～加工用ワサビの合同巡回を実施～



生育状況を確認する取引会社ら

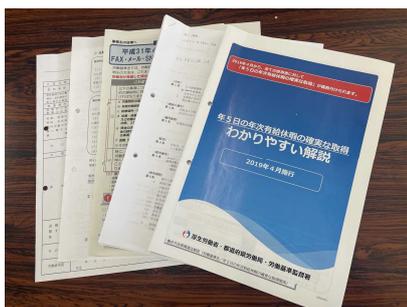
1月26日、JA高知県津野山営農経済センターの加工用ワサビ生産者3戸のほ場を、取引会社、JA、当課職員が巡回指導しました。

いずれの農家も定植から約2ヶ月が経ち、日射量が増えてきたため、株の分けつが始まっており、茎葉とも順調に増加していました。

取引会社の担当者からは「順調に生育している。昨年は不調だったが、今年は収量を期待できそう。」との感想がありました。

当課は、収穫始めとなる4月下旬頃まで、現地巡回によってかん水・追肥・温度管理等を徹底するよう指導し、収量アップを支援します。

## 労務管理について学ぶ ～地域経営・就農戦略会議の開催～



労務規則等に関する資料

2月1日、経営改善に意欲的なシフトウ農家1戸を対象に、農業経営・就農支援センターから派遣された社会保険労務士、県農業会議職員、当課職員で地域経営・就農戦略会議を当センター会議室で開催しました。

当課は、農家の課題整理等を支援して、就業規則等についての専門家派遣につなげました。

会では、他の農業者の就業規則を参考に、社会保険労務士から記載する必要のある事項や有給休暇の記載方法等の説明を受け、農家が希望する内容を聞き取りながら、追加・修正等の助言を受けました。

当課は今後、農家が就業規則案などを作成する過程で出てくる疑問点や不明点の解決に向けて、専門家等の活用を進め、農家の労務管理体制づくりを支援していきます。

## 農福連携を進めるために ～農福連携勉強会の開催～



農福連携を学ぶ農業者ら

2月2日、JA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会が、JA土佐くろしお営農資材センターで、農業者5人と農福双方の支援機関から8人が参加して、農福連携の勉強会を開催しました。

当課が開催を調整し、会では、先進地であるJA高知県安芸地区の農業就労サポーターから障害者等の受入について、須崎公共職業安定所の統括職業指導官から雇用などについて説明を受け、意見交換を行いました。

講師から「農福連携は土づくりと同じと思って、2～3年かけて人を育ててください」との投げかけがあり、参加者からは「実際に受け入れている農家を見学したい」といった意見がありました。

今後は、事例の見学、障害者への配慮方法などの勉強会を開催していきます。

## 収益の安定・向上を目指して、令和5年度の目標を作成 ～甘とう生産者の面談を実施～



面談をする普及指導員ら

2月9・13日、JA高知県津野山営農経済センターで、土佐甘とう生産者7戸に対して、JA営農指導員と当課職員が、個別面談を実施しました。

まず、令和4年度の栽培を振り返り、次に、令和5年度の目標収量・目標販売額を設定し、栽培上の課題を話し合い、改善に取り組む事項を決めました。農家と「単価が安い中、目標販売額を達成するにはどれだけの収量が必要か」などを話し合い、「簡単ではないが、栽培の問題点を1つ1つ改善したい」と、面談をした全農家が収量や栽培に関する改善目標を決めることができました。

当課は、今後も重点的に巡回指導等を行い、目標達成を支援します。

津野山地域で新たな品目の産地化を目指して ～ピーマン現地視察研修を実施～



意見を交わす生産者ら

2月10日、JA高知県津野山営農経済センターが、農業担い手育成センターと土佐市の促成ピーマン農家で視察研修を実施し、津野山地域のピーマン生産者3人、JA及び当課職員3人が参加しました。

当課は、生産者が基本技術を早期に習得できるよう、研修実施を支援しました。

ほ場では、かん水・追肥管理や主枝の誘引・側枝の整枝作業について活発な意見交換ができました。

参加者からは「側枝の整枝方法がよく分かった」「尻腐れ果対策として、栽培初期のかん水量を増やしてみる」などといった意見がありました。

当課は、今後もJAと連携し、ピーマンが津野山地域の新たな品目として定着するよう、指導していきます。